

▶先制点が入り歓声が沸き起こるアルプス



応援を力に

掴み取った1点

赤鬼の春Ⅱ 40



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

4回は両チームがランナーを出しながらも得点することができなかった。5回でも両チームともに大きなチャンスを作ったが、どちらも先制点は挙げられなかった。そして本校は6回表、一死満塁から内野ゴロの間に走者が還り、一点を先制した。

4回

宇野圭一郎君（2-6）の父、嘉人さんは4回までの試合を見て「そこまで試合のムードは悪くない。うちが拮抗を破ってほしい。緊張しているけどチームの雰囲気は良さそうなので大丈夫」と話され「まだまだ頑張れる。先制点を取ってほしい」と語気を強められた。滋賀学園のチアリーダーの三輪雪乃さんは「私た

ちの応援の声が聞こえることで、選手が力をもっと出せるようになればいいと思う」と話し「残り5回ある。もっと得点できるように頑張ってもらいたい」と熱意を見せた。

5回

嶋崎詠君（2-2）の母、和美さんは5回までの試合を見て「すごく競った試合だから、最後まで気を抜くことなく頑張ってもらいたい」とエールを送られた。チアリーダーの西田有李さん（1-6）は「一生懸命頑張っている選手の姿に元気をもらっている。惜しいところまでできているので、もう一息頑張ってもらいたい」と微笑んだ。保健体育科の森一夫先生は応援席を見て「夏に引き続きすごい。この応援は選手に届いていると思うし、相手高校への威圧になっていると思う」と話された。桂田未来さん（1-6）は「接戦でハラハラドキドキの試合で楽しい。選手の方も試合を楽しんでほしい」とメッセージを送り、吹奏楽部員の山北穂乃佳さん（1-4）は「点数

がまだ入っていないから、どつちが先制点を決めるかハラハラしている」と緊張した様子で話した。

6回

稲枝中学校野球部監督の筒井惣一郎さんは増居翔太君（2-4）が投手として活躍しているのを見て「中学時代よりも成長していて、感動している。これから活躍することを期待している。中学生の夢になってほしい」と思いを述べられた。高内希君（2-8）の父、昌紀さんは先制点が入ったことについて「先制点をとれてうれしい。これからも点を取れると思う。とにかく彦根東らしい野球を貫いてほしい」と期待を込められた。生徒会で応援の指示をしている木田優衣さん（2-6）は「楽しく応援することを中心にかけている。選手が応援の力は大きいと言っていたので、その力になろうと頑張っている」と応援で意識していることを話した。また応援席を見て「東高のOBの方たちは熱い。愛や熱量がこもっているといると思う」と笑顔を見せた。